

參加を拒絶せしめると同時に、澁澤男への反駁となつて現れたのである。この事件によつて表徴的に示されること、創立された協調會は、勞働運動の急進化、闘争主義化に直面しつゝ、極めて困難な一步を踏み出さねばならぬであつた。

斯かる困難な状態に當面して、初代常務理事とし就任されたのは、前記の如く、社會政策學者たる法學博士桑田熊藏氏、法學博士松岡均平氏並に前福岡縣知事谷口留五郎氏であつた。桑田、松岡両博士が我國に於ける社會改良思想の發祥たる日本社會政策學會の思想的流れを汲む學者であり、殊に桑田博士は同學會創立者の一人であつたことを考へれば、勞資間の對立の激化を前にして、その改良主義思想に基づき資本勞働調和論を何處まで實現

踐し得るかは、當時に於ける大きな社會的關心の的となつたのは當然のことであつた。

第二項 「協調會宣言」と協調思想の發展

然し、創立以來一年を出でておいて大正九年九月までには松岡、桑田並に谷口氏の三常務理事と相前後してその職を退き、本會創立の際に内務省地方局長として盡力せる添田敬一郎氏、元鐵道局經理局長永井亨氏並に内務事務官釋義鋪氏がこれに代つた。これら三常務理事と同時に、先づなされるべきことは、勞資協調なる思想に關する誤解乃至批評に對抗して、協調主義の精神を鮮明にし且つこれを普及徹底せしめることであつた。されば、本會は大正九年十一月「協調會宣言」を發表して、